電子書籍版 新聞『日本』 1925-1935 全35巻

［編集・解説］有山輝雄・滝上広水 ●【同時１アクセス】本体価格 1,386,000 円【同時３アクセス】本体価格 2,772,000 円

※ 分売可能　詳細はお問い合わせください。

第１回配本・全８巻　2025 年６月刊行予定

【同時１アクセス】本体価格 316,800 円【同時３アクセス】本体価格 633,600 円

1● 1925（大正 14）年 12 月～ 1926（大正 15）年３月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

2● 1926（大正 15）年４月～ 1926（大正 15）年６月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

3● 1926（大正 15）年７月～ 1926（大正 15）年９月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

4● 1926（大正 15）年 10 月～ 1926（昭和元）年 12 月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

5● 1927（昭和２）年１月～ 1927（昭和２）年３月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

6● 1927（昭和２）年４月～ 1927（昭和２）年６月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

7● 1927（昭和２）年７月～ 1927（昭和２）年９月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

8● 1927（昭和２）年 10 月～ 1927（昭和２）年 12 月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

第２回配本・全８巻　2026 年５月刊行予定

【同時１アクセス】本体価格 316,800 円【同時３アクセス】本体価格 633,600 円

9● 1928（昭和３）年１月～ 1928（昭和３）年３月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

10● 1928（昭和３）年４月～ 1928（昭和３）年６月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

11● 1928（昭和３）年７月～ 1928（昭和３）年９月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

12● 1928（昭和３）年 10 月～ 1928（昭和３）年 12 月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

13● 1929（昭和４）年１月～ 1929（昭和４）年３月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

14● 1929（昭和４）年４月～ 1929（昭和４）年６月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

15● 1929（昭和４）年７月～ 1929（昭和４）年９月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

16● 1929（昭和４）年 10 月～ 1929（昭和４）年 12 月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

第３回配本・全 10 巻　2027 年５月刊行予定

【同時１アクセス】本体価格 396,000 円【同時３アクセス】本体価格 792,000 円

17● 1930（昭和５）年１月～ 1930（昭和５）年３月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

18● 1930（昭和５）年４月～ 1930（昭和５）年６月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

19● 1930（昭和５）年７月～ 1930（昭和５）年９月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

20● 1930（昭和５）年 10 月～ 1930（昭和５）年 12 月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

21● 1931（昭和６）年１月～ 1931（昭和６）年３月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

22● 1931（昭和６）年４月～ 1931（昭和６）年９月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

23● 1932（昭和７）年１月～ 1932（昭和７）年３月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

24● 1932（昭和７）年４月～ 1932（昭和７）年６月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

25● 1932（昭和７）年７月～ 1932（昭和７）年９月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

26● 1932（昭和７）年 10 月～ 1932（昭和７）年 12 月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

第４回配本・全９巻　2028 年５月刊行予定

【同時１アクセス】本体価格 356,400 円【同時３アクセス】本体価格 712,800 円

27● 1933（昭和８）年１月～ 1933（昭和８）年３月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

28● 1933（昭和８）年４月～ 1933（昭和８）年６月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

29● 1933（昭和８）年７月～ 1933（昭和８）年９月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

30● 1933（昭和８）年 10 月～ 1933（昭和８）年 12 月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

31● 1934（昭和９）年１月～ 1934（昭和９）年３月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

32● 1934（昭和９）年４月～ 1934（昭和９）年６月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

33● 1934（昭和９）年７月～ 1934（昭和９）年９月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

34● 1934（昭和９）年 10 月～ 1934（昭和９）年 12 月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

35● 1935（昭和 10）年１月～ 1935（昭和 10）年 12 月
【同時１アクセス】本体価格 39,600 円【同時３アクセス】本体価格 79,200 円

関連企画

毎日新聞外地版　全 84 巻
［監修・編集］坂本悠一　揃定価：本体 2,940,000 円＋税　ISBN978-4-8433-4271-8

朝日新聞外地版 Ⅰ　全 68 巻・別巻１
［監修・編集］坂本悠一　揃定価：本体 2,285,000 円＋税　ISBN978-4-8433-2400-4

朝日新聞外地版 Ⅱ　全 37 巻
［監修・編集］坂本悠一　揃定価：本体 1,295,000 円＋税　ISBN978-4-8433-3854-4

ゆまに書房 YUMANI SHOBOU
〒 101-0047
東京都千代田区内神田 2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
https://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

● 特におすすめしたい方 ●
日本近代史、政治史、外交史、ジャーナリズム史、労働運動史の研究者、学生、大学図書館など。

25.05/01.4000.RS

監修の言葉

有山輝雄

ここにデジタル化して復刻する新聞『日本』は、当時政友会代議士で司法大臣であった小川平吉が一九二五（大正一四）年六月二五日に「日本主義」を掲げて発刊した日刊新聞である。この新聞が一九二〇年代三〇年代の政治問題社会問題において激しい論陣をはり、大きな反響を引き起こしたことはよく知られている。特に天皇機関説問題では機関説排撃の急先鋒であった。しかしその主張の論理などは明らかでなかった。それはこの新聞が国会図書館などに十分保存されておらず、紙面に実際にあたって調査することができなかったからである。今回はからずも無窮会に『日本』が保存されていることが分かり、同会のご理解で復刻することができることになった。無窮会所蔵の『日本』は創刊から約六ヶ月と一九三五年五月以降多くが欠けているが、『日本』が最も活動的であった約一〇年間については一部欠号はあるものの、ほとんどそろっている。しかも紙面はきわめてよい状態である。これによって従来名前だけは知られてはいるもののその実態が分からなかった『日本』の活動はようやく明らかにできることになった。

詳細な研究は今後に期待するが、取り敢えず瞥見しただけでも、この新聞が当時の思想動向、メディア動向のなかできわめてユニークな存在であったことがうかがえる。これに関係したのは北昤吉、上杉慎吉、若宮卯之助、綾川武治、中谷武世などの論客で、三井甲之、蓑田胸喜もたびたび寄稿している。右翼的潮流のなかでも国家社会主義に反対する「日本主義」の立場といえる。しかもそうした団体の発行するメディアはほとんど月刊か週刊であったのに『日本』は日刊新聞であった。次々生起する問題を即時に論じ報道していったのである。また通常の新聞と同様に社会面文芸面なども設けられている。ともすれば「日本主義」への関心は政治にかたよりがちだが、この新聞によって「日本主義」をより広い社会的文化的視野のなかに置くことができる。今回の『日本』復刻は一九二〇年代三〇年代の政治、文化、思想の研究を大きく進展させることは間違いない。

大正末、大正デモクラシーや自由主義、労働運動などに対抗すべく、国家主義、国粋主義を掲げ発刊された日刊紙。有力な後援者には、司法大臣として治安維持法に関わった小川平吉が立ち上げ、有力な政治家や学者が後援者となった。昭和恐慌、満州事変、５・１５事件、国際連盟脱退など、その後の日中戦争、太平洋戦争へと進んでゆく軍国日本を推進した新聞である。天皇機関説事件では、右派のメディアとして攻撃側の論を多く掲載した。陸羯南の『日本』とは直接にはつながらないが、後継紙であることは意識されていた。

本書の特色

- **大正デモクラシーから軍国体制への１０年間、国家主義、国粋主義のメディアとして大きな役割を果たした新聞『日本』の紙面をデジタル出版で研究者に提供する。**
- **労働運動や労働争議に反対勢力として積極的に関わっており、労働運動史の史料としても貴重である。**
- **日刊紙としての体裁も整えており、新聞史研究の貴重な史料である。家庭記事もある。**
- **第１巻に解題と解説を付す。**
- **記事名、執筆者名など（右見本□で囲ってある部分）の検索が可能。**

【主な出来事】◎第１回（第１巻～第８巻：1925.12 ～ 1927.12）**'26 昭和改元、'27 金融恐慌**／◎第２回（第９巻～第16巻：1928.01 ～ 1929.12）**'28 普通選挙・張作霖爆死・治安維持法改正**／◎第３回（第17巻～第26巻：1930.01 ～ 1932.12）**'30 統帥権干犯問題・昭和恐慌・浜口首相暗殺、'31 満洲事変・金輸出禁止、32 満洲国建国・5.15 事件**／◎第４回（第27巻～第35巻：1933.01 ～ 1935.05）**'33 国際連盟脱退、'35 天皇機関説事件**

●本文見本（70% に縮小してあります）　1930（昭和５）年３月 29 日